



都市を見つめ課題の本質を読み解く

—住宅を軸に、縮小過程にある都市や地域のフレキシビリティについて考える—

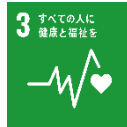
都市経営学部都市経営学科 教授 久保園 洋一

キーワード

都市計画、建築計画、住宅政策

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

縮小局面に入ったわが国では、まずは地方圏から人口減少が進み、高齢者・高齢単身世帯の増加に伴う生活維持や、世帯数減少・若年層流出に伴う地域の担い手不足などが対応すべき課題となっています。こうした課題に対し、人口・世帯数減少の過程で余剰する建築ストックを柔軟に活用し、世代間バランスを図ることや足りないサービスを補うことで地域の持続性を高めることを主題に研究を続けています。

高度成長期に開発され同世代が一斉入居したことで現在は高齢化が進んだ大規模開発団地や、福祉的な政策を通じ居住者の多くが高齢者となった公営住宅団地など、大都市圏にありながら既に課題が顕在化した住宅団地を対象に、全国に及びつつある高齢化・世帯数減少も意識した汎用性ある対応を探るものです。関連して増加傾向にある外国人(2015-2020、五年間の国全体の日本人減少 178 万人に対し外国人増加は 83 万人)について、住宅地における共生に関する研究を進めています。

また、自治体、博覧会協会などで新庁舎の計画策定、集合住宅、学校、美術館や博覧会施設の建設などを担当してきました。



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・都市や地域に関する計画づくりへの支援
- ・公共性が高い施設や建築に係る意思決定等に係る支援

これまでの連携実績

- ・地域住民、自治体、大学間連携による地域活性化を目的とした公営住宅の学生居住
- ・自治体、大学間連携による住宅団地再生に関する取り組みや共同研究

問合せ先 福山市立大学事務局総務課(地域連携センター)

TEL:084-999-1112 FAX:084-928-1248 MAIL:renkei@fcu.ac.jp